

入試概要
総合型選抜
公募型学校推薦選抜
英 公募型学校推薦選抜
数 公募型学校推薦選抜
学 公募型学校推薦選抜
生 公募型学校推薦選抜
物 公募型学校推薦選抜
化 公募型学校推薦選抜
学 公募型学校推薦選抜
国 公募型学校推薦選抜
語 公募型学校推薦選抜
一般選抜
一般選抜英語
一般選抜日本史
一般選抜世界史
一般選抜生物
一般選抜化学
一般選抜数学
一般選抜国語
音楽実技

公募型学校推薦選抜 出題のねらい

国 語

A方式・B方式ともに、国語の基礎学力を試す問題です。無論、基礎だからと言って、単純に正答が導き出せるような問題ばかりというわけではありません。基本的な知識を様々な応用する力を試す問題なども、少なからず出題しています。そうした力も、基礎学力のうちです。高校での授業などを通して基本を疎かにすることなくしっかりと身に付けつつ、同時に、日頃から自主的に色々な文章に接するなどして、言葉に関する感覚を磨き柔軟な対応力を養成して下さい。そうすることは、単に入試対策に有効というだけでなく、将来、大学でそれぞれの分野の学問・研究に励むうえで、さらには社会へと巣立って各方面で活躍するうえで、重要な骨格となる基礎力を培ってくれることでしょう。

また、現代文でも古文でも、基本的な語彙力や文法理解度から文脈把握力に至るまで、幅広い基礎学力を試しています。偏りない総合力を養うよう心掛けましょう。

A方式

現代文の方の問題文は少し長めですが、全体的な内容は把握しやすいでしょう。ただ、紛らわしい選択肢に惑わされたりしたことが原因かと思われませんが、全体の正答率は低かったです。漢字の問題以外では、⑥と⑦と⑨の正答率が87～99%であったのに対して、それ以外はすべて、50%未満でした。漢字の問題でも、③と④は正答率が低く、いずれも30%台でした。問二は、接続詞などを空所に補充する問題。空所よりも選択肢の方が多いため、こういう場合は混乱しないよう気を付けて下さい。問三すなわち⑩では、選択肢の⑥が最も紛らわしいでしょうが、「この水にはヒ素が……」という科学者の言葉は、「難しいことをやさしく表現」せず言っただけのものというよりも、そもそも「固」くて何の「おもしろ」味もない内容のコメントであるでしょう。問四の⑪は、最も正答率が低かったです。問題文中の関係箇所と五つの選択肢の双方を、粘り強く細部に至るまで正確に読み取り、逐一厳密に照合すべきでしょう。そのことは、問四に限らず、問五以降の設問においても同様です。問八の⑮の場合、設問中に「最も問題視している」とある点を見落とさないようにしなければなりません。そして、傍線部5から位置的に離れていますが、問題文中の中ほどに「科学技術に対する関心度の低下だけならばまだいい。困るのは、科学技術に対する不信感が芽生えることである」という記述が見える点に、特に注意する必要があります。

古文の問題文は、鬼の死体から剥ぎ取った隠れ蓑や隠れ笠を身に付けて、盗みを繰り返す大金持ちになった男の話。その興味深い内容を把握するのは、難しくないでしょう。問一の②は、「行き来の人」に結縁させるという使役の意味を持った漢字が入ります。正答率は低くて、30%台でした。漢文の基本的知識と古文の文脈の着実な把握力とを発揮しましょう。問三の⑤～⑦も正答率が低かったですが、こうした問題に対応できるだけの確固とした、文法に対する理解を養成しておいて下さい。基本の積み重ねです。問三の(2)の選択肢も、『小倉百人一首』に入っている歌ばかりですので、馴染みのあるものでしょう。問五の⑩も、かなり正答率の低かった問題です。傍線部Aに注目すべきでしょう。「力用」は、鬼の呪力など持ち主に関わるものではなく、隠れ蓑・隠れ笠の効力です。選択肢②の「その呪力」の「そ」は隠れ蓑・隠れ笠でなく鬼を指しているものと捉えるのが自然でしょう。問題文と選択肢を正確に把握する必要があります。問七の(2)(3)の⑬～⑮は、特に正答率が低かったです。⑭は確かにちょっと難しいですが、「御

髪上げ」や「理髪役」という言葉に惑わされないように。⑮は、前後の文脈から判断できるでしょう。その⑮から「おこたり」が名詞だとわかり、そのことが⑬のヒントになっていきます。⑰や⑱、⑳といった古典常識や文学史の問題にも対応できるようにしておいて下さい。

B方式

現代文の問題文は短めで、論理的に把握しやすかったからでしょうか、全体として、正答率が高かったというほどではないですが、少なくとも低くはありませんでした。問一の漢字問題では、①と③が低い正答率となっていました。選択肢として並んでいるものも含めて、確認しておいてください。問二の中では、⑩の正答率が最も低かったです。そもそも漢詩の読み下しというものに対する理解が不足しているのが、そうなった一つの要因でしょう。また、問題文が、空所⑩に続けて、「直訳」が「一つの詩として日本人に受けとられた」と述べている点などに、充分注意が払われなかった結果でもあるでしょう。問三の⑫は、約25%と極端に正答率が低く、B方式の現代文の中では最低でした。現代文であっても、文学史あるいは文法の問題が出題されることもあります。それらについても、疎かにしないよう、基本事項の把握に努めるようにしましょう。問五の中では、⑮と⑯は正答率が80%以上でしたが、⑭は50%未満でした。⑭の場合、選択肢の①と③は論外で、それら以外から選択することになるでしょうが、「抒情詩」は、口語で書かれるか文語で書かれるかということとは無関係です。現代文に限らず国語という教科にとって基本的な用語でしょうから、正確に理解しておく必要があります。問六以降では、問八の⑱の正答率が低かったです。「問題文の内容を踏まえ」という条件が付いていることを見逃さないように。

古文の問題文は少し長いですが、注も豊富に載せていますので、全体の内容を理解するのはそれほど困難ではないでしょう。問四の④は、前後の設問に比して正答率がかなり低かったですが、敬語について、その種類に加え敬意の主体および対象について正確に把握する力は、是非身に付けておかなければならない基礎力であり、古文の読解に必要不可欠のものであります。問五の⑧と⑨も正答率が低かったです。「仙鶴」は霊仙が乗る鶴で、「才卿」は、直前に出てくる「江帥卿」大江匡房(注19参照)のことです。問六の⑪の場合、「はかり無く」に対応する「無量」、⑫の場合は、「はからざる」に対応する「不図」、という熟語をそれぞれ想起するといいでしょう。問九の⑮に関しては、問題文の「おそれ屈して」の「おそれ」が「恐怖」の意でなく「恐縮」の意であることなどに注意しましょう。⑯については、問題文の末尾三行に特に注意して下さい。「江帥卿」の記述内容と、それに対する作者の反応・理解のあり方を、正確に把握する必要があります。また、「清涼殿」についての基本的知識も活用して下さい。問十は、漢文の問題になっています。単独では出題しないという条件下でも、漢文に関するこの程度の出題があり得ることは、過去問を確認していればわかることでしょう。いずれの設問も正答率が50%未満と低かったですが、最も低かった⑳も、漢文についての初歩的な理解があれば対応できるものです。

国語 ①

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

科学について語る場合、従来の流儀では、いわゆる科学技術の「専門家」が情報を与え、「素人」がそれを拝聴するという構図になる。そうなる、必然、科学技術の知識を「教えてあげる」という、一方通行的な意識に立ったものとなりがちである。もちろん、そのような「教育的」な知識伝達が有効な場合もあるにはある。しかし、それはあくまでも、情報を受ける側に関心意識がある場合だろう。理科離れ、科学離れで問題なのは、サイエンスに対する関心度の低下ないし欠如であり、非専門家が開く耳をもたなくなっていることだとして、そもそもこれではコミュニケーションが成り立たない。

ここで言う非専門家には、分野が異なる科学技術の研究者も含まれている。専門の細分化にともない、科学技術者が異分野の人とコミュニケーションしたいという意欲が薄れていることも、科学離れの一種と言えるかもしれない。そうなる、科学技術をめぐる一方通行のコミュニケーションは、語る側も聞く側もその数を減らしていることになる。

研究者がアウトリーチがショウレイされてるが、その場合も、何かを教えるという意識が前面に出てしまうと、おそらくコミュニケーションはうまくいかないだろう。そこで必要とされるスキルが、エレベーター・トークであり、タクシー・トークである。まずは、相手の好奇心をくすぐることから始め、こちらの話を傾けてもらう必要がある。なにしろ、大卒者にしてもその七割はいわゆる文系であり、文系への進学の動機で重きをなすのは数学、物理に対する苦学意識であったりする(大学進学率は約五割)。そのせいか、一般に、科学は難しいもの、取っつきにくいものという認識が蔓延しているのだ。

サイエンスコミュニケーションの観点から見た場合のアウトリーチの最大の目的は、科学技術の研究者とはどんな人種かを、一般人(日本人の大半を占める文系の人)につぶさに知ってもらうことにある。あるいは逆の言い方をすれば、一般人の人が科学技術の研究者をどう見ているかを、研究者に自覚してもらうことにある。

科学技術者に対するステレオタイプな認識を示すおもしろいジョークがある。悲観論者と楽観論者と科学者がいたとする。この三人は、水道水が半分だけ入っているコップについて、それぞれ三者三様のコメントをするというのだ。すなわち、
・ 悲観論者「水が半分しか残っていない」
・ 楽観論者「まだ半分も残っている」
・ 科学者「この水にはと素が五〇〇ピー・ピー・ピー (ppb) 含まれている」

このジョークは、一般に科学者は **10** というイメージが世間に定着していることを如実に示している。もちろん、実際にはそんな科学者、研究者ばかりではないはずである。ちなみにと素の含有量は五〇〇ピー・ピー・ピーとは、水道水の許容範囲に相当する。

二〇〇四年に内閣府が全国の一八歳以上を対象に実施した「科学技術と社会に関する世論調査」では、「科学技術に関する知識はわかりやすく説明されれば大抵の人は理解できる」と思いますが、という質問に対して、「そう思う」との回答が五二・一パーセント、「そうは思わない」との回答が三三・三パーセントだった。**6** 半分以上の人は、わかりやすい説明を求めていることになる。

そうしたフウチョウを反映したのかどうかはわからないが、二〇〇七年一月に実施された同様の世論調査では、「科学技術に関する知識はわかりやすく説明されれば大抵の人は理解できる」と思いますが、という質問に対して、「そう思う」と回答した人は六四・一パーセント、「そうは思わない」と回答した人は二五・六パーセントだった。**8** わかりやすければいいのかという問題もある。授業をそそ落し、おまけにCボタンまで抜いてしまったような話は、面白くもおかしくもない。比喩をうまく使えば、難しい話を難しくないように話す技術はほしいものだ。

朝水振一郎、J・シユウインガー、R・フアンマンのノーベル物理学賞同時受賞に「役買ったこと」で知られる物理学者のフリーマン・ダイソンは、エッセイ集「ガイアの素顔」(幾島幸子訳、工作舎)の中で、若者が科学を嫌う理由として、権威主義的、実利主義的、核兵器などへの悲しき貢献の三つをあげている。そこでダイソンは、科学のこうした醜態な面を隠すべ

きではない、
9 科学は芸術の一形態である。科学には権威を打破する力がある。国家の枠を越えた国際性をもつという三つの美しい面をあわせて紹介し、科学を自由に探求することを教えるべきだと述べている。ダイソンがそのエッセイ集で強調しているいちばんの信条は、科学の世界とアートの世界は、いずれも国境や人種の壁をやすやすと越えるユニバーサルなゲージという点で共通点が多いというものである。

ユニバーサルゲージとは言っても、科学について語り合うことには、やはり、さまざまな関門がある。科学を素人にコミュニケーションすればいいじゃないかと行ってしまえばそれまでだが、誰が誰と、どこで、どのようにコミュニケーションし合えばいいのか。

それについて考える前に、まず、サイエンスコミュニケーションという理念が登場した背景について、おさらいしておきたい。前述したように、単に科学の知識を伝えるという意味のコミュニケーションならば以前から行われてきた。しかしその大半は、研究や教育、啓蒙に携わる科学技術の専門家が一般人の向けに説明するという、一方通行のものであった。だがこのやり方には明らかに限界がある。なぜなら、そもそも科学に関心のない人たちは、「専門家」によるそうした解説に耳を傾ける気もなければ、その必要性も感じない。これでは、声が届きようがない。

それは逆に、いわゆる「素人」である一般人の人たちが科学技術に対してどのような意見や要望をもとうと、科学技術者や行政関係者にその声が届くことはほとんどなかった。「専門家」の側も、聞く耳をもていなかったらダメである。その結果どうなったか。「専門家」は、素人にはいくら説明してもわからないし理解しようもないしと思いつつ、一方、その結果として、科学技術者は変人であり、話を聞いてもよくわからないというイメージを強化させてしまった。この悪循環が、科学技術者の浮世離れと、一般人の人たちの科学技術に対する関心度低下を助長してきた。これが、先進国に共通する近年の社会状況だった。

科学技術に対する関心度の低下だけならばまだいい。困るのは、科学技術に対する不信感が芽生えることである。科学技術は、われわれの生活に多大なる恩恵をもたらしてきた。しかしその一方で、公害問題、遺伝子組み換え食品をめぐる不安、クロン羊や臓器移植、生体医療などの先端生命科学技術が提起する生命倫理上の問題、BSE(狂牛病)や、鳥インフルエンザなどの新興感染症に対する対応の遅れなどが、科学技術への不信感を煽ってきた。科学技術は、はたしわれわれの安心・安全を保障してくれるのかという疑念、あるいは無力感、反科学や偽科学、怪しげな宗教の台頭を招きかねない。そうした状況の中で、一九九〇年代にイギリスを中心としたヨーロッパでサイエンスコミュニケーションという理念が登場した。

科学技術者は何をすべきかかわかったものではない。行政はあてにならないといった不信感を払拭するには、「専門家」の側から一般の人との積極的な対話を心がけねばならない。その際には、相手に知識を与えてやろうという意識をもつてはいけな。自分の専門分野について、自分はこういう意識で、こういう目的で、こんなふうに取り組んでいると、「ふつうの言葉」で伝え、相手の言葉にも謙虚に耳を傾けねばならない。まずはお互いの風通しをよくすることが始めよう。そうして、科学技術が社会に溶け込み、健全な発展がはかられていくはずだ。この双方向的なプロセスこそ、サイエンスコミュニケーションのあるべき姿だといえる。

日本におけるサイエンスコミュニケーションをめぐること数年の動きの中でもっとも顕著なのが、サイエンスカフェの普及だろう。サイエンスカフェとは、カフェなどで飲み物を片手に、ゲストを囲んで科学について語り合うイベントのことを言う。今や全国各地で各種団体が、カフェや喫茶店に限らず、書店の一角などでも開催している。

サイエンスカフェは、一九九八年に、パリとイギリスのリーズではほぼ同時発生のに始まった活動である。それ以前から、パリでは哲学について語り合うカフェが開かれていた。そこでイギリスでも、フランス風にカフェ・シアンティファイックと呼ばれることもある。あるいは、英国科学振興協会(BA)が主催するサイエンスカフェは、サイ・バー(SABAR)と称している。

リーズでサイエンスカフェを開始したタンカン・タラスは、テレビ局の元プロデューサーである。隠退生活を送っていたが、科学が身近な話題にのぼることが少ないことから、自分が住むコミュニティ内にあるカフェで科学について語り合う会を主催

する。サイエンスカフェは、一九九八年に、パリとイギリスのリーズではほぼ同時発生のに始まった活動である。それ以前から、パリでは哲学について語り合うカフェが開かれていた。そこでイギリスでも、フランス風にカフェ・シアンティファイックと呼ばれることもある。あるいは、英国科学振興協会(BA)が主催するサイエンスカフェは、サイ・バー(SABAR)と称している。

サイエンスカフェは、一九九八年に、パリとイギリスのリーズではほぼ同時発生のに始まった活動である。それ以前から、パリでは哲学について語り合うカフェが開かれていた。そこでイギリスでも、フランス風にカフェ・シアンティファイックと呼ばれることもある。あるいは、英国科学振興協会(BA)が主催するサイエンスカフェは、サイ・バー(SABAR)と称している。

サイエンスカフェは、一九九八年に、パリとイギリスのリーズではほぼ同時発生のに始まった活動である。それ以前から、パリでは哲学について語り合うカフェが開かれていた。そこでイギリスでも、フランス風にカフェ・シアンティファイックと呼ばれることもある。あるいは、英国科学振興協会(BA)が主催するサイエンスカフェは、サイ・バー(SABAR)と称している。

サイエンスカフェは、一九九八年に、パリとイギリスのリーズではほぼ同時発生のに始まった活動である。それ以前から、パリでは哲学について語り合うカフェが開かれていた。そこでイギリスでも、フランス風にカフェ・シアンティファイックと呼ばれることもある。あるいは、英国科学振興協会(BA)が主催するサイエンスカフェは、サイ・バー(SABAR)と称している。

サイエンスカフェは、一九九八年に、パリとイギリスのリーズではほぼ同時発生のに始まった活動である。それ以前から、パリでは哲学について語り合うカフェが開かれていた。そこでイギリスでも、フランス風にカフェ・シアンティファイックと呼ばれることもある。あるいは、英国科学振興協会(BA)が主催するサイエンスカフェは、サイ・バー(SABAR)と称している。

サイエンスカフェは、一九九八年に、パリとイギリスのリーズではほぼ同時発生のに始まった活動である。それ以前から、パリでは哲学について語り合うカフェが開かれていた。そこでイギリスでも、フランス風にカフェ・シアンティファイックと呼ばれることもある。あるいは、英国科学振興協会(BA)が主催するサイエンスカフェは、サイ・バー(SABAR)と称している。

サイエンスカフェは、一九九八年に、パリとイギリスのリーズではほぼ同時発生のに始まった活動である。それ以前から、パリでは哲学について語り合うカフェが開かれていた。そこでイギリスでも、フランス風にカフェ・シアンティファイックと呼ばれることもある。あるいは、英国科学振興協会(BA)が主催するサイエンスカフェは、サイ・バー(SABAR)と称している。

サイエンスカフェは、一九九八年に、パリとイギリスのリーズではほぼ同時発生のに始まった活動である。それ以前から、パリでは哲学について語り合うカフェが開かれていた。そこでイギリスでも、フランス風にカフェ・シアンティファイックと呼ばれることもある。あるいは、英国科学振興協会(BA)が主催するサイエンスカフェは、サイ・バー(SABAR)と称している。

サイエンスカフェは、一九九八年に、パリとイギリスのリーズではほぼ同時発生のに始まった活動である。それ以前から、パリでは哲学について語り合うカフェが開かれていた。そこでイギリスでも、フランス風にカフェ・シアンティファイックと呼ばれることもある。あるいは、英国科学振興協会(BA)が主催するサイエンスカフェは、サイ・バー(SABAR)と称している。

サイエンスカフェは、一九九八年に、パリとイギリスのリーズではほぼ同時発生のに始まった活動である。それ以前から、パリでは哲学について語り合うカフェが開かれていた。そこでイギリスでも、フランス風にカフェ・シアンティファイックと呼ばれることもある。あるいは、英国科学振興協会(BA)が主催するサイエンスカフェは、サイ・バー(SABAR)と称している。

サイエンスカフェは、一九九八年に、パリとイギリスのリーズではほぼ同時発生のに始まった活動である。それ以前から、パリでは哲学について語り合うカフェが開かれていた。そこでイギリスでも、フランス風にカフェ・シアンティファイックと呼ばれることもある。あるいは、英国科学振興協会(BA)が主催するサイエンスカフェは、サイ・バー(SABAR)と称している。

サイエンスカフェは、一九九八年に、パリとイギリスのリーズではほぼ同時発生のに始まった活動である。それ以前から、パリでは哲学について語り合うカフェが開かれていた。そこでイギリスでも、フランス風にカフェ・シアンティファイックと呼ばれることもある。あるいは、英国科学振興協会(BA)が主催するサイエンスカフェは、サイ・バー(SABAR)と称している。

サイエンスカフェは、一九九八年に、パリとイギリスのリーズではほぼ同時発生のに始まった活動である。それ以前から、パリでは哲学について語り合うカフェが開かれていた。そこでイギリスでも、フランス風にカフェ・シアンティファイックと呼ばれることもある。あるいは、英国科学振興協会(BA)が主催するサイエンスカフェは、サイ・バー(SABAR)と称している。

することにした。基本的な形式は、スライド（パワーポイント）などはいっさい使わずに二〇分ほどゲストが話したあとで、休憩時間をほさみ、質問と討論の時間をもつ。休憩時間を取るのは、飲み物を追加するという意味もあるが、聴衆どうしがゲストの話について意見を交換し、質問すべきことを確認し合う時間をもつためである。

サイエンスカフェで重要なのは、フアンリテーターと呼ばれる進行役の存在である。いかに座を盛り上げるかは、ひとえにフアンリテーターのソウケンにかかっている。そして、そのイベントで大切なのは、みんなが何かを学んだり納得することではなく、自宅や職場で科学を話題にするきっかけを得ることである。一方、B Aが主催するサイ・パの主旨は、科学技術の研究者に市民の声を聞かせることだという。

イギリス国内でもサイエンスカフェはさまざまな発展を遂げている。過激なタイプとしては、フアンリテーターがゲスト科学者のトークにも介入し、「あなたの流儀は世間からずれている」ということを自覚させることを目的としたものもある（ゲストが怒り出すこともままにはあるらしい）。そうした形式では、会場に来た参加者全員が討論に加わるためにも五人程度の聴衆が理想的だとされている。

では、そういう場に登場する研究者にとつてのメリットはなんだろうか。思うに、本人にとつての大きなメリットは、第三者に自分の科学を語ることで自分が思わぬ発見につながりうることはないか。門外漢（他分野の科学者も含む）を相手に自分の研究を語り、異分野の人たちの新鮮な反応に出合う中で、セレンディビティの天使が突如舞い降りるかもしれない。これは社会にとつてのメリットでもある。今やすっかり細分化されてしまった科学の風通しを今一度よくすることの恩恵は、計り知れないのだ。

サイエンスカフェが目指すもう一つの方向としては、社会的に関心の高い科学の話題をめぐる議論をカシキするということがある。これもイギリスの例だが、ロンドンの科学博物館には、そのための専用施設であるデインセンターが併設されている。ふだんはカフェとして営業しているのだが、週に何度かそこでサイエンスカフェが開かれ、その模様はウェブでも流される。聴衆にはイェス・ノーを答える投票ボタンが渡され、イベントの途中でいくつかの質問が投げかけられる（現在は科学館の図書館となっている）。

創始者のダンカン・グラスに言わせれば「こんなのはサイエンスカフェじゃない」とのことだが、地元コミュニティで行なわれる本来のサイエンスカフェがミニコミ、だしたら、マスコミ的なイベントを目指したのがデインセンターのサイエンスカフェなのだろう。日本で行なわれているサイエンスカフェの様式もさまざまである。書店などの公共スペースで行なわれるものには、スライドを使用した講演方式のものが多い。日本人の聴衆は、あまり質問をしないという国民性もある。それでも、さまざまな形式が試される中で、自分たちに合ったイベントが工夫されつつある。

そんな中で、はく自身が考えるサイエンスカフェの日本の原点は「井戸端会議」である。共用の井戸端で、米を研きながら科学の噂話に興じる光景が出現したときこそ、科学が「米の飯」のようなものになったと言えるだろう。（渡辺政隆「一粒の種の種——科学と文化を語る——」による）

- 注1 アウトリーチ研究者や研究機関が研究成果を社会的に周知するための活動
注2 エレベーター・トランク……タキシード・エレベーターやタクシーに乗っている間に行われるような、相手の興味を引く短い話
注3 10分〜15分程度の「Pecha」(百分の一)より小さな含有量を表す。
注4 セレンディビティ＝偶然のもたらす幸運。セレンディップ(金のスリランカ)の故事に基づく。

問一 線部A～Eの漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は①～⑤。

- A ショウレイ
① レイケンな態度。
② チョウレイボカイによる税制の混乱。
③ リユレイな筆づかい。
④ 帰宅後の手洗いをレイコウする。
⑤ コレイケイはお元氣ですか。

- B フウチヨウ
① 赤をキチヨウとした絵。
② 時代のシチヨウを読みとる。
③ 失敗してチヨウシヨウの的となる。
④ コセイチヨウありがとうございました。
⑤ 捲土チヨウウライを期す。

- C シンボウ
① シンシヨウボウタイに言い立てる。
② カンボウ長官の記者会見。
③ 流行性カンボウの予防接種。
④ シンボウエンリヨをめぐらす。
⑤ 入り組んだ現象をカイボウする。

- D ソウケン
① ますますゴソウケンのごと存じます。
② ケンボウジュッスウを駆使する。
③ 高いケンシキをもつ政治家。
④ 問題点がケンザイカする。
⑤ 国家にヒケンする財力をもつ富豪。

- E カンキ
① 円をドルにカンサンする。
② 議会上証人をカンモンする。
③ カンテクガイに足を運ぶ。
④ カンワ休題、例の件はどうなった。
⑤ カンセンチヨウウアクもののドラマ。

問二 6 9 (解答番号同じ)に入る最も適当な言葉を、次の①～⑥の中から一つずつ選び、マークしなさい。(同じ選択肢は一度しか使えません)。

- ① ただし
② ところが
③ むしろ
④ たとえば
⑤ ならばこそ
⑥ つまり

問三

10

【解答番号同じ】に入る最も適当な文を、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。

- ① 固い、話がおもしろくない
- ② 客観的だが、悲観的だ
- ③ 専門知識をもった皮肉屋だ
- ④ 教えてあげようという意識から脱却できない
- ⑤ ユーモラスな悲観論者だ
- ⑥ 難しいことをやさしく表現できない

【解答番号同じ】に入る最も適当な文を、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。

問四

【線部1「従来の流儀」の問題点として筆者はどのようなことを指摘していますか。最も適当なものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は11。

- ① 科学技術の研究者ではない人に専門家が「教えてあげる」かたちのサイエンスコミュニケーションは、従来のようには成り立たなくなってしまう。なぜなら、聞き手に存在した科学への関心や語り手もっていたコミュニケーションへの意欲が消えてしまったからである。
- ② コミュニケーションを専門としない専門家が、従来のような何かを伝えてあげようという意識で素人に知識を伝達することは難しくなった。なぜなら、現在ではコミュニケーションも一つの専門技術として細分化されてしまったからである。
- ③ 従来は科学技術の専門家が意欲的な「素人」に啓蒙的な知識伝達を行うことができたが、現在では困難である。なぜなら科学への「素人」の関心が薄れただけでなく、科学技術者のコミュニケーション意欲もおしなべて薄れてしまったからである。
- ④ 従来、科学技術の専門家は細分化した専門に従事していればよかつたが、現在ではそれは難しい。なぜなら、研究の意義を社会に広く認めさせるためには、本職に割く時間を犠牲にしても非専門家の関心を得る技術を手になさなければならないからである。
- ⑤ 従来のような、聞く意志を持つ非専門家に専門家が教えるという一方的な知識伝達は成り立ちにくくなっている。なぜなら、科学の専門分野が細分化したり、科学への苦手意識が浸透したりしているためか、聞く意志を持つことを非専門家に期待しにくくなっているからである。

問五

【線部2「ファシリテーター」の具体的な役割としてどのようなものがあると説明されていますか。最も適当なものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は12。

- ① 科学技術や科学者のことを市民がどう考えているのかを伝えるなかちとなる。
- ② 科学者が社会からずれていることを認識させるために、参加者が多くとも討論には全員が参加するようにする。
- ③ 専門家が「教える」ことを手助けするのではなく、自宅や職場で科学を教える小さな専門家を育てる手助けをする。
- ④ サイエンスカフェの種類によっては、一般市民の肩を持つとして、専門家の話に繰り返し割って入る。
- ⑤ ゲスト科学者が新鮮な反応に出合えるような、専門分野の垣根を越えた多彩な人々を聴衆として招待する。

問六

【線部3「そういう場に登場する研究者にとってのメリットはなんだろう」に対する筆者の考えとして最も適当なものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は13。

- ① 科学者と市民をつなぐ伝道師として市民が日常的に科学を話題にする手助けができること。
- ② 予想外の科学的発見に対して異分野の人々が新鮮な反応を示すことで、科学の諸分野の統合がもたらされること。
- ③ サイエンスカフェの聴衆から意外な反応を得ることで、社会に貢献する研究成果を得る可能性が高まること。
- ④ 専門の科学研究者が科学者ではない人にわかりやすく話をする中で、新発見が生まれやすくなるということ。
- ⑤ 社会がいかに科学の話題を議論しているかを知ることで、科学への不信感を払拭する手掛かりが得られること。

問七

【線部4「こんなのはサイエンスカフェじゃない」に対する筆者の考えとして最も適当なものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は14。

- ① 小さなコミュニティで開催されるサイエンスカフェこそが理想的であり、大規模なサイエンスカフェは邪道である、というダラス氏の考えに理解を示しつつも、筆者は各地の実情に合ったサイエンスカフェの実現を望んでいる。
- ② サイエンスカフェは、科学者が社会に向けて科学の話題を提供するための場でなければならない以上、マスコミ的なイベントを目指す方向にかしを切るのはやむを得ないと考えている。
- ③ 筆者は、ダラス氏の理想と対極にあるマスコミ的サイエンスカフェに一定の理解を示しながらも、自身としては日本の実情に密着したサイエンスカフェを立ちあげると、ダラス氏に近い考えを抱いている。
- ④ 筆者は、ミニコミ的・マスコミ的いずれのサイエンスカフェをもよしとしており、両者を実現するために最終的に日本ローカルのミニコミ的サイエンスカフェを世界進出させるという理想を抱いている。
- ⑤ ダラス氏の理想を一つの極論として紹介しつつ、ロンドンのマスコミ的サイエンスカフェや筆者自身の計画する地域に根ざしたサイエンスカフェを対置することで、サイエンスコミュニケーションの豊かな未来を暗示している。

問八

【線部5「科学が「米の飯」のようなものになった」とありますが、そのようにならない理由として筆者が最も問題視していることは何ですか。次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は15。

- ① もし科学が日々の生活に溶け込まなければ、一般の人たちの科学技術に対する関心を低下してしまうから。
- ② もし科学が利益を生まなければ、「素人」は「専門家」の説明を聞く必要性を感じないままだから。
- ③ もし科学が社会全体で共有するようにならないならば、専門家と一般の人たちの乖離が増大していく一方だから。
- ④ もし科学が日常に浸透しなければ、科学に対する不信感が社会の不安・危険を生じさせかねないから。
- ⑤ もし科学が噂話の域を脱しなければ、科学技術への疑念が技術の向上を妨げるおそれがあるから。

国語 ②

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。この文章には、漢文体による記述が部分的に混在していますが、その箇所の送り仮名は省略してあります。

天竺の舍衛国に、一人の男あり。一日の寿命を助けがたきほどの貧窮の者なり。折ふし、用ありて他国に行く。道の側らに大塔を建つ。しかるに、心柱を立てんとするに、人勢少なくて、**1** 得立（得立）、檀那（檀那）、道の側らに立ちて、行き来の人を語らひて、**2** 結縁（結縁）。しかるに、かの貧男も非道（非道）に、**3** 囚（囚）、もろともに心柱を立てぬ。かの男、心に思ふことは、「今日、門出して悪しかりける日なり。はかばかしく食事もせぬ身の、速路を行かんとするに、思はぬほか**3** 囚、非能の力を尽くして疲れたるかな。帰らん」と思ひて行くところに、道の中に糞（糞）着たる死人あり。立ち寄りて見れば、鬼なり。しかるに、鬼の持つ宝には、二宝三珍といふものあり。三珍とは、打ち出の小槌（打ち出の小槌）、隠人首（隠人首）、浮草海（浮草海）なり。二宝とは、隠れ糞（隠れ糞）、隠れ笠（隠れ笠）なり。ただし、主だに死すれば、力用失せて、隠れ糞（隠れ糞）、隠れ笠も頭はれ見ゆるなり。この男思ふことは、「鬼にてもあれ、主の死にたれば、大事なし。新しき糞笠なり。取らば」と思ひて、これをはぎて行くほどに、知人に行きあひ、あるいは家に行きたれども、たれも何とも言はず。また、他人の家へ行きたれども、家主も知らず。その時、かの男思ふことは、「これは、鬼の持たる隠れ糞、隠れ笠なり」と思ひて、他の物を取る。また、他の家にある物を取るにも、人知らず。如此するほどに、財宝充満せり。七日過ぎて、夢想到聖人來たりて曰く、「汝は、前生無施心故に、貧窮に生まれたり。しかれども、塔を建つるころに行きて、心柱に手を付けて結縁したりし故に、宝塔の利生にて、如此鬼の二宝を授けたり。信心を致して、親のため塔を建て、所願成就すべし」と告げ給へり。夢覚めて、いよいよ信心を致せり。

〔因縁抄〕による

- 注1 天竺の舍衛国は古代インドの国。釈迦が好んで滞在した祇園精舎がある。
注2 大塔は出家者たちが居住する僧院の中心となる仏塔。
注3 心柱は建築物、特に仏塔などの中心となる柱。
注4 檀那は寺院や僧尼に種々の施与をする信者。
注5 隠人首は不詳。隠れ糞と隠れ笠と同様のものか。
注6 浮草海は不詳。それを履くと水に浮く履の類か。

問一 1 3 (解答番号同じ)に入る最も適当な漢字を、それぞれ次の①～⑥の中から一つずつ選び、マークしなさい。〔同じ選択肢を二度以上選んでもかまいません。〕
①可 ②不 ③非 ④能 ⑤令 ⑥将 ⑦無 ⑧被
問二 線部「非道」の「道」と同じ意味の「道」を含んだ熟語を、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。
解答番号は 4
① 報道 ② 仏道 ③ 伝道 ④ 道程 ⑤ 道理 ⑥ 道俗

問三

線部A「主だに死すれば、力用失せて、隠れ糞、隠れ笠も頭はれ見ゆるなり」と、線部B「鬼にてもあれ、主の死にたれば、大事なし」について、以下の(1)～(3)の問いに答えなさい。

- (1) 次のa～fの説明文の中に、誤っているものは何個ありますか。後の①～⑦の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 5
a AにもBにも格助詞および接続助詞が含まれている。
b AにもBにも活用語の連用形が二つ以上含まれている。
c AとB合わせて二箇所、断定の意味の助動詞が使われている。
d AとB合わせて二箇所、変格活用動詞が使われている。
e Aには完了の意味の助動詞が含まれ、Bには存続の意味の助動詞が含まれている。
f Aには上二段活用をする動詞が含まれ、Bにはク活用をする形容詞が含まれている。
(2) A～Bに含まれる「ば」と同じ意味・用法の「ば」を含んだ和歌を、それぞれ次の①～⑦の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は Aは 6、Bは 7
① 天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも
② 有馬山猪名の笹原風吹けばいそよ人を忘れやはする
③ 心にもあらで憂き世にならへば恋しかるべき夜半の月かな
④ 吹くからに秋の草木のしをるればむべ山風を嵐と言ふらむ
⑤ 見せばやな雄馬の海人の袖だにもぬれにぞぬれし色は変はらず
⑥ 逢ひ見ての後の心にくらふれば昔は物を思はざりけり

問四

線部1「はかばかしく食事もせぬ」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 9

- ① 道中で大塔を建立するための労働に従事することになると、思ってもみなかったから。
② 前世における所行の報いによって極めて貧しく、わずかな食糧しか得られなかったから。
③ 他国にて充分に食糧が調達できることを期待し、出かける前の食事を控えめにしたから。
④ 他者に施す気持を持たないため他者から施されることもなく、極めて貧しかったから。
⑤ 隠れ糞などを入手するや盗みを重ねるような性根の悪さゆえ、極貧の身に生まれたから。

問五 〰〰〰線部2「道の中に葦笠着たる死人あり。立ち寄りて見れば、鬼なり」とありますが、隠れ蓑と隠れ笠を身に付けた鬼が男に見えたのは、なぜですか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 10。

- ① もともと目に見えない鬼でも、死ぬと見えるようになり、その持ち物である隠れ蓑と隠れ笠も威力を失ったから。
 - ② 鬼が死んでしまった結果、その呪力が完全に消え失せて、鬼自身も隠れ蓑と隠れ笠も姿を現すことになったから。
 - ③ 鬼が死んでいるので、隠れ蓑と隠れ笠の効力がなくなつて、鬼の姿もそれ自体も目に見えるようになったから。
 - ④ 食事も充分にせず疲れ切り、死の世界に限りなく近付いていた男には、異界が視野に入るようになっていたから。
 - ⑤ 大塔建立という尊い仕事に従事して疲労困憊した大要賀しい男を哀れんで、聖人が特別に見えるようにしたから。
 - ⑥ 大塔の心柱を立てる仕事に従事した男に、隠れ蓑と隠れ笠を与えようと考えて、聖人が特別に取り計らったから。
- 問六 次の①～⑥の中から問題文の内容と明らかに**合致しない**ものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 11。
- ① 男は、他国へ向かう途中、大塔の心柱を立てる仕事に、決々ながらも加わることになった。
 - ② 大塔の心柱を立てる仕事に加わつていなければ、男は隠れ蓑や隠れ笠を入手できなかった。
 - ③ 男が隠れ蓑や隠れ笠を身に付けると、男の姿だけでなくそれらも他者から見えなくなった。
 - ④ 男は、自らの姿が他者からは全く見えないことを利用し、盗みを繰り返して富裕になった。
 - ⑤ 隠れ蓑や隠れ笠を使って盗みを重ねた男は、いずれその報いを受けなければならなかった。

問七 隠れ蓑や隠れ笠について説明した次の文章を読んで、後の(1)～(8)の問いに答えなさい。
隠れ蓑は、早くには、次の通り「枕草子」に出てきます。中宮定子の妹の原子がやつて来たのを、清少納言がのぞき見している場面です。

おもものをりになりて、御髪上げまなりて、蔵人ども、御まかなひの髪上げて、まゐらするほどは、へだてたりつる御屏風も押しあけつれば、かいま見の人、隠れ蓑取られたる心地して、あかずわびしければ、御簾と几帳との中に、柱の外よりぞ見だてまつる。

「御髪上げ」は理髪役の女官。「蔵人」は雑役に従事した下級女官で、「かいま見の人」が清少納言自身です。ここでは、隠れ蓑が 表現に使われています。

また、右の「枕草子」と同じ頃には、「隠れ蓑」と題する物語もありました。現在には伝わっていないのですが、その一部が、文永八年(一二七二)成立の「風葉和歌集」に、

左大将、かたちを隠して所々見りけるころ、前斎宮に大式まさかぬが近付き寄りけるを、太神宮と思はせてさまさま申しけるに、おそれおこたり 申して出でなければ、よみ 給ひける

前斎宮

※わがためにあまてる神のなかりせばうくてぞやみななほまとはましと引用されています。この話では、左大将が隠れ蓑を着て姿を隠し、伊勢の皇太神宮すなわち天照大神のお告げだとおぼせて、大宰府の次官である「まさかぬ」に語りかけています。

さらに、「保元物語」には、源為朝に「鬼馬」の住人が語つた言葉が出てきて、その中に「鬼の持つる隠れ蓑、隠れ笠、打ち出の小槌、浮く腹、沈む腹」と見えます。問題文と同じく、打ち出の小槌などと共に、隠れ蓑や隠れ笠が鬼の持

ち物だと認識されています。

(1) に入れるのに最も適当なものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 12。

① 誇語 ② 例置 ③ 比喩 ④ 対句 ⑤ 縁語

(2) 〰〰〰線部ア「まゐり・イ「まゐらする」・ウ「たてまつる」・エ「申し」・オ「給ひ」には、謙譲語の補助動詞が何個含まれていますか。次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 13。

① 0個 ② 1個 ③ 2個 ④ 3個 ⑤ 4個 ⑥ 5個

(3) 〰〰〰線部a「おももの」・d「おこたり」の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑥の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は 14。

① お食事 ② お休み ③ お出かけ ④ お出まし ⑤ お着替え

② お休む ③ お出かけ ④ お出まし ⑤ お着替え

(4) 〰〰〰線部b「あかずわびしければ」の現代語訳として最も適当なものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 16。

① 仕方がなくて悲しい感じがするの
② 心残りや腹立たしい感じがするの
③ ひどくやりきれない感じがするの
④ 名残惜しく興ざめな感じがするの
⑤ 物足りなくてつらい感じがするの

(5) 〰〰〰線部c「几帳」の説明として最も適当なものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 17。

① 細い角材を縦横に細かく組み造った戸。
② 内と外に掛けがねのある面開きの板戸。
③ 木の骨組みに紙等を張って造つた建具。
④ 座のわきなどに立てて隔てとした家具。
⑤ 畳やむしろの上に敷いた編入れの敷物。

(6) 和歌について述べた次のa～cの文のうち正しい記述をすべて挙げたものを、後の①～⑦の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 18。

a 現実にはこの世に神など存在しないという事実に対して、それと反対のことを仮に想定する、反実仮想の表現をとっている。
b 「あまてる神」とは、「太神宮」と同じく天照大神のことであつて、その「て(照)」と「やみ(闇)」とを対照させている。
c 「やみ」には、「あまて(天照)る神」が隠れて世が暗くなるという意の闇と、作者の乱れる心の闇とが、掛けられている。

(7) 「枕草子」と「風葉和歌集」の間に成立した作品を、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 19。

① 「十訓抄」 ② 「風姿花伝」 ③ 「土佐日記」 ④ 「徒然草」 ⑤ 「蜻蛉日記」

べての詩の翻訳は、意味の訳であると同時に、原作の言葉そのものも持っている味わいの、別の言葉でのつくり替え、つまり創作ということになるでしょう。

日本には、長い間にわたっての外国の詩の翻訳という問題があつて、それはいわゆる漢詩というものです。漢詩は中国語という日本語と全く別の言語による詩です。その読み下し、**10** 直訳が、一つの詩として日本人に受けとられたのはなぜでしょうか。それは意味だけの問題ではなく、音こそちがうけれど、目で見た効果はそのままであるという点、殊に共通の単語が多いということに係つていたのでしょう。もしそうでなければあんなに長い間、日本人が漢詩を読み、漢詩をつくつたはずはなからうと思います。

このように詩における言葉の使い方は、日常生活における使い方と密接に結びついていて、科学的な使い方はタイシヨウ的である。そういう特徴は、詩ばかりでなく、多かれ少なかれ文学一般についてもいえるでしょう。だから文体は、作家によつてもちがうということになるのです。

(加藤周一著「著作集第一六巻『科学技術時代の文学』による)

注1 ソシュール『二八五七―一九二三』スイスの言語学者。言語の本質に関する科学的な研究を主導し、後の記号論や構造主義思想にも大きな影響を与えたことから、『近代言語学の父』とも呼ばれる。

注2 サルトル『一九〇五―一九八〇』フランスの哲学者、小説家、劇作家、哲学論文や評論に加え、小説や戯曲などの創作でも世界的に高い評価を受けるとともに、政治活動にも積極的に参加した。

問一 ――線部A～Eの漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は**1**～**5**。

- A タイシヨウ
- ① ショウシンシヨウメイの宝物。
 - ② 良いインシヨウをもつ。
 - ③ ショウサンを惜しまない。
 - ④ 指教をシヨウゴウする。
 - ⑤ 英語のニンシヨウ代名詞。
- B タイシヨウ
- ① 王朝のシヨウチヨウセイスイ。
 - ② ショウゾウ樹林を採る。
 - ③ ショウゾウ画を描く。
 - ④ ニンシヨウ評鑑を行う。
 - ⑤ チュウシヨウ的な話をする。
- C ジョジュツ
- ① コウジヨリヨウゾクに反する。
 - ② ジョクンの伝達式を行う。
 - ③ 医療費がコウジヨされる。
 - ④ サンジヨ会員になる。
 - ⑤ トツジヨとして消える。
- D ヒユ
- ① 傷口がユチヤクする。
 - ② 荷物をユノウする。
 - ③ チョクユ法を使う。
 - ④ ユカイン気分になる。
 - ⑤ 学校のキョウユになる。
- E ベンギ
- ① ギコウを凝らす。
 - ② ジギになつた企画をうつ。
 - ③ オウギヒデンを授かる。
 - ④ コウギ集会を開催する。
 - ⑤ タニンギョウキにふるまう。

問二 ――線部A～Eの漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①～⑧の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は**6**～**10**。

- A
- ① そこで
 - ② だから
 - ③ しかも
 - ④ ちなみに
 - ⑤ つまじ
 - ⑥ しかし
 - ⑦ そもそも
 - ⑧ とりわけ
- B
- ① 高村光太郎
 - ② 金子みすゞ
 - ③ 中原中也
 - ④ 茨木のり子
 - ⑤ 富沢賢治
 - ⑥ 萩原朔太郎
- C
- ① A 内容 B 形式
 - ② A イメージ B もの
 - ③ A 形式 B 対象
 - ④ A 対象 B 内容
 - ⑤ A 形式 B もの
 - ⑥ A イメージ B 内容

問三 ――線部A～Eの漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①～⑥の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は**11**～**12**。

- A
- ① 高村光太郎
 - ② 金子みすゞ
 - ③ 萩原朔太郎
 - ④ 茨木のり子
 - ⑤ 富沢賢治
 - ⑥ 萩原朔太郎
- B
- ① A 内容 B 形式
 - ② A イメージ B もの
 - ③ A 形式 B 対象
 - ④ A 対象 B 内容
 - ⑤ A 形式 B もの
 - ⑥ A イメージ B 内容

問四 ――線部A～Eの漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①～⑥の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は**13**。

- A
- ① 戯曲の形をとって書かれた詩
 - ② 口語で書かれた情感あふれる詩
 - ③ 歴史的事件や神話などを題材とした詩
 - ④ 文語で書かれた感情を揺さぶる詩
 - ⑤ 作者の感情や情緒を表現した詩
- B
- ① 透明感のあるリズムカルな文章
 - ② 数式や化学式等を用いて書かれた文章
 - ③ 韻律や句法にとられずに書かれた文章
 - ④ 様々な事柄を無作為に書き連ねた文章
 - ⑤ 焦点が明確ではなく論旨が散漫な文章
- C
- ① 上位の者から下位の者に言いつける命令
 - ② 研究内容の要点を示す象徴的なタイトル
 - ③ 研究の成果やその意義についての解説
 - ④ 真偽の判断の対象となる文章または定理
 - ⑤ 翻訳することが可能な社会的課題

問六 ――線部1「詩人は、ガラスを見ると同時に、外の景色を見るのです」とありますが、この文は、言葉に対する詩人のどのような態度をたえていますか。その内容として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 17。

- ① 詩人は、言葉をガラスのようなものと考えるときに、様々な物事を理解するための重要な手段と捉える。
② 詩人は、言葉の透明性を重視するだけでなく、それがもつ様々な色や音、形についても重視する。
③ 詩人は、言葉が記号として用いるために、記号そのものもつ色や音についてはほとんど重視していない。
④ 詩人は、言葉がもつ意味だけでなく、それが話されたときの音や書かれたときの形をも重要な要素と捉える。
⑤ 詩人は、言葉がもつ意味を理解するために、それが話されたときの音や書かれたときの形を巧みに利用する。

問七 ――線部2「翻訳は同時に創作になるでしょう」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 18。

- ① 詩の翻訳においては、「意味するもの」としての言葉の表現には価値が置かれず、原作の言葉によって「意味されるもの」のみを忠実に再現することに重きが置かれるから。
② 詩の翻訳においては、原作の言葉によって「意味されるもの」を忠実に再現するだけでなく、その「意味されるもの」をも超える内容を表現することが目指されるから。
③ 詩の翻訳においては、原作の言葉によって「意味されるもの」には価値が置かれず、「意味するもの」としての原作の言葉の別の言葉による表現のみが重視されるから。
④ 詩の翻訳においては、原作の言葉によって「意味されるもの」にヒントを得て新たな「意味されるもの」を生み出し、それを別の言葉で表現し直すことになるから。
⑤ 詩の翻訳においては、原作の言葉によって「意味されるもの」を表現するために、「意味するもの」としての原作の言葉を別の言葉で表現し直すことになるから。

問八

――線部3「だから文体は、作家によってちがうということになるのです」とありますが、それはなぜですか。問題文の内容を踏まえ、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 19。

- ① 作家はそれぞれに強い個性をもつがゆえに、その性格や思想、思考の特徴に大きな違いがあり、それらの違いが各自の文体に影響を与えるから。
② 作家は言葉を、それ自身が音や形をもつ実体として扱っているが、その実体としての言葉に対する感覚が作家によって異なるから。
③ 文体は、その作家がその作家であることを示すもの、すなわち作家としてのアイデンティティを形成する重要な要素の一つであるから。
④ 作家は、自らの感性や思考の自然な流れに即して文章を紡ぎ出してゆくため、その文体もその作家に特有の特徴をもつことになるから。
⑤ 文体は、言葉によって「意味されるもの」のほうを重視する作家が、自身の価値観や嗜好によって自由に選択するものであるから。

(国語①問題 おわり)

国語②

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

この西宮殿、月のあかりける夜、御琵琶かきならして、南面にあかさせ給ふ御ことありけり。夜更け、人取まりて、夜漏のいたれるところ、丑三つにもやなぬらん、御前の階隠のほとりに、物のかけろふやうに見えければ、御琵琶をさし置き、御心を強くして仰せられけるは、「我はこれ御家において三公第一の相府なり。人臣と言ひながら、たやすかるべき玉官にあらず。A いかなる霊鬼なりとも木魔なりとも、天の下に影を宿し、率土にあなうらを結ばんたひ、B みだりに朝臣を犯さんや。神明なほ誓願におそ、C 鬼類をや。すみやかに罷り退くべし」と仰せられて、御剣を近く引き寄せさせ給ひければ、霊、申し言はく、「我はこれ鬼類にあらず。大唐国に侍りし琵琶の師、廉承武なり。君をはかり奉るべき志にはあらず、いささか啓すべきむありて、この御に臨めり。君、おそれ給ふ御心無かれ。つぶさに聞て聞て奉らん」と申す。

ここに左相府、承武が霊ときこしめすより、あはれにおぼしめして、御剣をさし置き、みづから新しき菅内座、杖をさし与へ給ふ。霊、おそれ屈して、しばらく御に徘徊すと言へども、つひに座に侍りて、しばしその志を述べて言はく、「君、知り給はずや。礼楽は、これ源、五音より出でて、五行欠けたること無し。かるがゆゑに、五徳自然に至りて、五蔵またれに具足せり。五蔵整へば、仏界また自然の供養を受け給ふ。このゆゑに、三玉を供し奉る功力、はかり無くして、身ははからざるに仙靈の果を得たり。仙雲に乗りて、ただ今、空を過ぎ侍るに、御琵琶の散音らうたくして、いにしへの穆、曹の二善もこれにはいかた、耳しばらくあきらかにして、開元寺の秋の夕べ、翹材館の奉る朝、そのよしみ骨に入り、その戯れ肝に銘じて、心茫茫たり。仙術、験を失ひて、既にここに推参を企つる所なり。たゞ、真敏がために今一曲を残して、再会長。黙止せり。Cの恨み、いまだ消え失せざるがゆゑに、この曲を君に奉り、すみやかに安全を払ひ、執心を休め侍るべしとなり。石火光り消えて、生を他界につなぐと言へども、灯のもとに爰を聞きし報い、人間は家の犬、仙靈は山の鹿にて、魂浮かれ侍る

がゆゑに、片時の推参を企つ。下界の凡卑は、戒力無きがゆゑに、我進む心有れども、人近づくこと難し。上界の善哲は、守護のみ無ければ、類當り難し。今これに参り臨むことは、ただ君の我が道にかけりて懇ろなる御志、おのづから天の心に成へて、臨み参り侍りぬ。黄壤の本懐、ただこの一事に侍り」として、たちまちに「上原」の一曲を啓進せんと申す。ここに丞相、驚きおぼしめして、御琵琶を霊仙に与へ給ふ。仙、これを賜はりて、返風香調を整へ、調ふ。散声、気高くかき鳴らして、曲をなすこと、兩三遍なり。月更け、空白みて、仙鶴一挙を唱へければ、沈香を身に触れ、口に嘗めて、鳥のごとくにして、なくなく雲に入り侍りぬ。これよかけの曲伝はりて、今は四曲とも言ひなり。博雅卿は、このことを伝へ聞き、嫡弟信明の朝臣を奉りて、件の曲をば賜はせ給ひぬ。そもそも古事談とて、江帥卿の書きおき給へる物語には、村上の聖主、清涼殿にして玄士をよそはされけるに、この霊孫卿に推参のよし記し給へるとかや。さしもの才卿、定めて見給ふ所こそ侍らめども、村上の帝は御筆ばかりなり。御琵琶の沙汰は、有りとも承らず。

(文机談による)

注1 西宮殿：正二位・左大臣の深高明（九一四―九八二）。父は醍醐天皇。邸宅が西の京にあり「西宮殿」と呼ばれた。後の「三公第一の相府」は、左大臣のこと。
注2 夜漏：夜の時刻。「漏」は時刻を測る水時計「漏刻」のこと。
注3 階隠：寝殿などの正面中央にある階段を覆うために突き出た屋根の部分。
注4 木魔：「木魂」とも書く。古木の精霊。
注5 率土にあなうらを結ばんたひ：片隅の土地であつても、そこに足の裏を付けて存在しているもの。
注6 警蹕：貴人が通る時の先払いの声。
注7 廉承武：唐末の楽人。揚州の開元寺の翹材館にいた。遣唐使として入唐した藤原貞敏は、琵琶の曲を伝えた。

注8 五音^{ごおん} 宮^{みや}・商^{しょう}・角^{かく}・徵^{しち}・羽^うの五音階。「五声」とも言う。以下、「五行」は木・火・土・金・水の五元素。「五徳」は仁・義・礼・智・信の徳目で、「五常」とも言う。「五戒」は仏教の不殺生・不偷盗・不邪淫・不妄語・不飲酒の五つの戒め。

注9 三宝^{さんぼう} 仏・法・僧。

注10 貞観^{しんかん} 藤原貞敏（八〇七―八六七）。承和五年（八三三）遣唐使・准判官として唐に至り、藤承武の娘と結婚して二人に琵琶を習ったのち、紫誦^{むらさき}・琵琶を贈られ、翌年帰国した。

注11 人間は家の犬、仙童は山の鹿^{とんち}。「家の犬」は去りにくく、「山の鹿」は去りやすいものなどとして、自分が仙界に入った今も人間界が忘れ難い、という意。

注12 上界の上層^{じやうじやう} 上流のすれた方。

注13 黄壤の本懐^{わうじやう} 「黄壤」は黄泉の国で、今は死後の世界にいる自分の本来の望みを指す。

注14 上原^{じやうげん} 「上原石上」のこと。「楊柳探^{やうりゆうたん}」石上流^{いしかがみ}「啄木^{たくぼく}」の三曲と共に琵琶の秘曲とされる。

注15 返風香調^{へんぷうかうてう} 琵琶の調子の名称の一つ。

注16 沈香^{しんかう} 香木の一種で、そのまま薬物ともされるが、ここでは薫で練った香か。

注17 博雅卿^{はくやけい} 従三位・非参議、皇后宮権大夫の源博雅（九一八―九八〇）。琵琶・笛などの名手。

注18 信明^{しんめい} 従五位上・大藏大輔の源信明（生没年未詳）。博雅の妻子又は猶子。琵琶の名手。

注19 江御卿^{えごけい} 権中納言・大空権師の大江匡房（一〇〇一―一一一一）。「古事談」の編者ではない。

注20 村上の聖王^{むらまのせいおう} 第六十二代天皇（九二六―九六七）。

注21 支上^{しじやう} 「玄象」とも書く。唐から伝えられた琵琶の名琴。御物。

問一 線部ア「琵琶」と現代の「お琴」である。線部ウ「箏」は、ともに胡琴を張った絃楽器です。絃の数の組み合わせとして正しいものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 1。

① 琵琶は四絃で、箏は三絃である。

② 琵琶は四絃で、箏は七絃である。

③ 琵琶は四絃で、箏は十二絃である。

④ 琵琶は七絃で、箏は三絃である。

⑤ 琵琶は七絃で、箏も七絃である。

⑥ 琵琶は七絃で、箏は十三絃である。

問二 線部イ「丑三つ」は何時ごろを指しますか。次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 2。

① 午後十一時 ② 午前〇時 ③ 午前一時 ④ 午前二時 ⑤ 午前三時 ⑥ 午前四時

問三 解答番号は 3。

に入る語句の組み合わせとして正しいものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。

- | | | |
|----------|--------|--------|
| ① A いかでか | B いはんや | C たとひ |
| ② A いかでか | B たとひ | C いはんや |
| ③ A いはんや | B いかでか | C たとひ |
| ④ A いはんや | B たとひ | C いかでか |
| ⑤ A たとひ | B いかでか | C いはんや |
| ⑥ A たとひ | B いはんや | C いかでか |

問四 線部 a i e の「侍り」について述べた文として誤っているものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 4。

① 補助動詞が二つある。

② 源高明以外への敬意を表すものが一つだけある。

③ 連用形が四つある。

④ すべて丁寧語である。

⑤ 作者の敬意を表すものが二つある。

問五 線部ア「物・イ「我」・ウ「雲仙」・エ「仙鶴」・オ「才卿」の語が指すものが、源高明の場合は①、藤承武の場合は②、源博雅の場合は③、この三人以外の場合は④を、それぞれマークしなさい。解答番号はアは 5、イは 6、ウは 7、エは 8、オは 9。

問六 線部 A i C の「はかる」の意味を表すのに最も適当な漢字を、それぞれ次の①～⑥の中から一つずつ選び、マークしなさい。同じ選択肢は一度しか使えません。解答番号は A は 10、B は 11、C は 12。

① 計 ② 量 ③ 謀 ④ 図 ⑤ 語

問七 線部 A 一月のあかりける夜・B 南面にあかせ給ふの現代語訳として最も適当な組み合わせを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 13。

① A 月が明るかった夜 B 南面を広く開けさせなされる

② A 月が明るかった夜 B 南面で飽きるほど過ごされる

③ A 月が明るかった夜 B 南面で夜明けまで過ごされる

④ A 月が赤かった夜 B 南面を広く開けさせなされる

⑤ A 月が赤かった夜 B 南面で飽きるほど過ごされる

⑥ A 月が赤かった夜 B 南面で夜明けまで過ごされる

問八 線部 C かの恨み、いまだ消え失せざるがゆゑにの現代語訳として最も適当なものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 14。

① あの人の恨みの気持が、まだ無くなっていないので

② あの人が恨んだまま、まだ姿を消していないので

③ あの人の無念が、まだ消えないかと思うので

④ あのことを残念に思う気持が、まだ無くなっていないので

⑤ あのことへの恨めしいという思いが、まだ残っているの

⑥ あのことへの無念さがまだあるのか、いやもう消えはすな

問九

次のA群の①～⑤の中から問題文の内容と合致するものを一つ選び、B群の①～⑤の中から問題文の説明としてふさわしくないものを一つ選んで、それぞれマークしなさい。解答番号は15・16。

15

A群 ① 廉承武の霊は源高明のことを恐ろしく思っており、しばらく座るのをためらっていた。② 源高明は左大臣という高官であり、相手が霊ということであるなど、気持ちは持ち続けている。③ 廉承武の霊は恐ろしい姿を見せて、源高明を動揺させた。④ 源高明は廉承武の霊の話に驚き、琵琶の演奏をやめた。⑤ 廉承武の霊は以前から源高明のことを知っており、現れたというわけではない。

16

B群 ① 神仙思想と仏教思想の融合が見られる。② 秘曲を伝えたいという名人の執念がうかがえる。③ 作者は、この話の本当の舞台は宮中だったと考えている。④ 対句表現が複数用いられている。⑤ 主に二人の人物の対話によってできていることが紹介されている。

問十 線部「いにしへの穆・曹の善もこれにはいかか」に関する次の文章を読んで、後の(1)～(4)の問いに答えなさい。

源高明の琵琶の演奏の見事さを述べた言葉だが、「穆・曹」の二人を琵琶の名人の代表とするのは、次の「白氏文集」卷十二「琵琶行」の序文に基づいている(部分的に送り仮名を省略している)。

元和十年、予、左遷九江郡司馬。明年秋、送客湓浦口、聞船中夜彈琵琶者。聽其音、鏗鏘然、有京都聲。問其人、一彈一絃、信安、嘗學琵琶於穆、曹二善才。年長色衰、身不復為貴人婦。遂命酒、使快彈數曲。曲罷、慙然自歎。三少小時、歡樂事、今漂淪憔悴、轉徙江湖間。予出官二年、恬然自安。感斯人言、是夕、始覺有遷謫意。因、為長句歌、以贈之。凡六百一十二言。命曰「琵琶行」。

作者白居易が、司馬という閑職に左遷された翌年秋、湓江の波止場で客を見送った際に、ある女性の弾く琵琶の音色と身の上話に心を動かされて、長句の歌を作ったのが「琵琶行」である。彼女は、もとは「17」の妓女であった。その身の上話を聞き、白居易は初めて「18」を感じたのである。この任地では他にも多くの漢詩文が作られ、「19」などの日本の古典文学作品に影響を与えた。

- (1) 17 洛陽 (2) 蘇州 (3) 揚州 (4) 江州 (5) 長安 (6) 望郷の念 (7) 精神の安穩 (8) 妙技の必然 (9) 橋岡の情 (10) 左遷の悲哀 (11) 19 解答番号同じ) 枕草子 (12) 方丈記 (13) 万葉集 (14) 源氏物語 (15) 新古今和歌集

(4)

線部「聞船中夜彈琵琶者」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は20。

- ① 夜に船の中において、琵琶の音色に耳を澄ました。② 夜に船の中において、琵琶の音色が聞こえてきた。③ 夜にどこかの船の中で琵琶を演奏する音が、聞こえてきた。④ 夜にどこかの船の中で演奏される琵琶の音色に、耳を澄ました。⑤ 船の中の夜という琵琶の曲が、聞こえてきた。

(国語②問題 おわり)